

セ試“地歴2科目選択”実現までには 課題多く、紆余曲折も！

22年度からの実施は、厳しい状況か？

旺文社 教育情報センター 19年7月

センター試験(以下、セ試)の「地理歴史」(以下、地歴)と「公民」の「試験枠」を1コマに統合して“地歴2科目選択”を可能とし、併せて「理科」も1コマに統合する「試験枠」の改編案について昨日、当Webサイト(*URLは下記参照)で報じた。

この記事についての続報を以下にまとめたので、お伝えする。

セ試「試験枠」の改編案は、大学入試センターにおける有識者会議でまとめた提案であり、最終的には、大学入試センターを所管する文部科学省において決定することになる。センター試験の実施に当たっての基本的な事項については、実施年度の2年程前の毎年5月下旬、文部科学省から各大学宛に「大学入学者選抜に係る大学入試センター試験実施大綱」が通知され、これに基づき大学入試センターから、高等学校を含めた各関係機関宛に「大学入学者選抜に係る大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等」が通知される。したがって、セ試の実施方法の基本的な事項は、文部科学省の通知する「実施大綱」で正式に告知されることになる。

ただし、「試験枠」改編のような、受験生や高校現場に多大な影響を及ぼす事項については、決定次第、直ちに受験生や高等学校等にも周知するよう、関係機関に通知するという。

ところで、今回の改編案には、解決しなければならない課題も多い。

昨日配信の当Webサイトにも記したように、同一の「試験枠」(途中退席がない場合、試験時間は同じ)における“2科目受験者”と“1科目受験者”との解答時間の公平性の問題や、「地歴」B科目(4単位)と「公民」の各科目(2単位)との取扱いなど、運用面での具体的な整備が求められる。

特に、“2科目受験者”と“1科目受験者”との解答時間の問題については、計算問題などで時間との勝負となるケースも少なくない「理科」において、解答時間の公平性がより深刻な形で現れるおそれもある。

また、昨秋発覚した必修科目の“未履修問題”において、セ試の「試験枠」による受験形態と、高等学校での履修形態との齟齬についても指摘されている。

中央教育審議会では現在、高校教育に大きな影響を及ぼす大学入試の改革も含め、次期学習指導要領の改訂に向け、教育課程全体の見直しを審議している。

こうした様々な課題をクリアしていくためには、今後、高等学校・大学等、関係機関からの幅広い意見聴取が必要で、実現までには紆余曲折もあろう。

こうしたことから、22年度からのセ試「試験枠」改編の実施は、厳しい状況にあるともいえよう。

*URL = <http://passnavi.evidus.com/teachers/topics/0707/0706.pdf>